建設経済常任委員会県外行政視察研修報告書

建設経済常任委員会は、平成２８年７月１２日～１４日の３日間の日程で、県外行政視察研修を行いました。目的地は高知県高知市、広島県福山市、山口県宇部市です。参加者は渋井康男委員長、加藤朋子副委員長、手塚定委員、鈴木恒充委員、永井孝叔委員、笹沼昭司委員及び事務局職員１名でした。

研修の目的は、高知市においては「中心市街地活性化の取り組みについて」、福山市では「里山里地の再生・保全事業について」、また宇部市では「うべふるさとツーリズム創出事業」及び「うべ元気ブランド」についてでした。順次研修概要についてご報告します。

高知県高知市

〇中心市街地活性化の取り組みについて

７月１２日は高知県高知市を訪問しました。

高知市は、四国の中南部に位置する高知県の県庁所在地です。人口約３４万人、面積約３０９平方ｋｍで中核都市に指定されています。高知市の中心市街地は、高知城や有名な「はりまや橋」を中心に、帯屋町商店街や大通り商店街など大規模繁華街によって形成され賑わって来ました。しかし平成１７年に帯屋町商店街に位置していた大規模スーパーが撤退したのを境に空き店舗が急速に増加し、市街地の人口も著しく減少してきました。

これに歯止めをかけるために制定されたのが「高知中心市街地活性化基本計画」です。平成１１年に策定されたものを、平成１８年のまちづくり三法改正を受けて焼きなおしし、平成２４年に国から認定を受けました。計画では１．中心市街地居住人口の減少、２．魅力低下に伴う来街者の減少、３．賑わい（回遊）の低下の３つの課題を解決する目的で、国、県、市、民間、学生など様々な主体が実施する、５１の事業が登載されています。

高知市　中心市街地商店街	

また計画では、中心市街地を４つのゾーンに分けています。高知城を中心とした「歴史拠点」、高知駅を中心とした「おもてなし拠点」、文化プラザ「かるぽーと」等を中心とした「文化拠点」、そしてはりまや橋、商店街を中心とした「にぎわい拠点」です。それぞれが特徴を持った拠点として展開しながら、相乗効果を生んで市街地全体の魅力を創造する計画です。

高知市研修風景	３００年以上の歴史を誇る街路市

具体的な事業としては、国、県の補助による大規模施設の建設から、商店街単位の小さなイベントまで多様な事業があります。代表的なものとしては新図書館等複合施設（オーテピア）建設、高知城の歴史を伝える新資料館整備事業、南海トラフ地震に備えて老朽化した庁舎を建替える新庁舎建設事業、さらに民間主導で行われた、大規模スーパー跡地を利用した商業施設と賃貸住宅等の複合施設（帯屋町チェントロ）などがあります。注目すべきは商店街を中心とした定期イベントや、街なか季節イベントの豊富さです。街全体を１００円ショップに見立てて、１００円の商品を陳列する「１００円商店街」、子どもが就業体験をし、そのお駄賃で貰った「るんだ」という地域通貨を使って買い物が出来る「わくわくワークるんだ商店街」、街全体が宴会場になる「土佐のおきゃく」等、地域の人の手作りの様々なイベントが年間を通じて、精力的、積極的に展開されています。

さくら市としてもこのようなきめ細かい取り組みが、参考になるのではないかと思いました。

広島県福山市

〇里山里地の再生・保全事業について

７月１３日は広島県福山市を訪問しました。

福山市は広島県の東端に位置する面積約５１８平方ｋｍの中核市で、広島県内では広島市に次ぐ約４６万人の人口を擁しています。隣接し地理的歴史的にも関係の深い岡山県井笠地方を含む備後都市圏の中心都市でもあります。

福山市内	

山・川・海に囲まれた豊な自然を残すとともに、新たな基幹産業の復興、流通機能の充実、福山駅を中心とした商業復興計画を始め、「瀬戸内の交流拠点都市」を目指した街づくりを行なっています。平成２８年７月１日に市施施行１００周年となり、記念事業が目白押しです。また、潮待ちの港として万葉の時代から栄え、豊かな文化を育んできた鞆の浦は、歴史に名高い旧跡や遺構も数多く残され、最近では映画やテレビドラマのロケ地や演歌の舞台にもなっています。映像を通じて福山市の魅力が全国に発信され、１００周年でさらなる都市ブランド力の向上につながるものと期待しているとのことです。

福山市では、他地域同様、古来より地域独自の歴史や文化を育んできた、里山里地の荒廃が進んでいます。里山里地が荒れると、イノシシなどによる鳥獣被害も拡大すると同時に、伝統的な美しい農山村地域の景観が失われ、生物多様性など様々な自然の持つ機能が低下してしまいます。しかし市街地を取り囲む自然環境を守り、里山里地を再生、保全するには、農地、森林所有者、農林業者だけでは困難であり、自然環境を享受する市民、ＮＰＯ、企業、大学、各種活動団体、地域団体との協働と行政支援が不可欠です。このような観点から実施されているのが福山市の「里山里地の再生・保全活動支援事業」です。

具体的な事業としては、荒廃した里山里地を再生する意向を持った団体に対して、草刈、枝打ちなどの保全活動にかかる経費を５年間支援する制度や、

リタイア世代を中心に「里山里地協力隊」を募り、保全作業やしいたけ生産、竹炭制作など地域再生に取り組んでもらう制度、また都市部の人々との交流促進やイベント等を実施する際の支援制度などがあります。福山市には、現在「里山里地再生・保全事業」で認定を受けている団体は５つあり、年間を通じての精力的な活動を通じて、延べ参加人数は２千人に上るとのことでした。

山口県宇部市

〇うべふるさとツーリズム創出事業について

うべ元気ブランドについて

７月１４日は山口県宇部市を訪問しました。

宇部市は山口県西部の周防灘（瀬戸内海）に面した、面積約２８５平方ｋｍ、人口約１７万の山口県３番目の都市です。

宇部市では地域資源や人材を活用した、地域主体の着地型、体験型観光「うべふるさとツーリズム」と宇部産の農水産物を用いて６次産業化を促進する「うべ元気ブランド」について研修を受けてきました。

うべふるさとツーリズム創出事業の主なものには「うべ探検博覧会」があります。これはＮＰＯ法人うべネットワークが市から委託を受けて、特産ランチを楽しんだり、制作教室に参加したり、街歩きを楽しんだり、講和を聞いたりといった各種体験ツアーを提供し、それに事前申し込みで参加するイベントです。
平成２２年から毎年春と秋の２回開催されています。博覧会の成功を受けて、夏休みの子ども向けイベント「キッズうべたん」も平成２５年から初めて開催され、参加率ほぼ１００％の大成功を収めています。

事業パンフレット	うべ元気ブランド

宇部市研修風景	

ただし参加者の内訳を見ると、大多数が市内在住者であり、今後は市外、県外からの参加者を惹きつける仕掛けが必要だと考えているそうです。

うべふるさとツアーのもう一つの目玉は企業とタイアップした産業観光バスツアーです。地元企業の協力を得て、企業訪問を目的とするツアーを興行し、そこに職員ＯＢが「産業観光エスコーター」と添乗し、当事者しか知らない裏話など、自らの体験を織り交ぜた案内や、文献資料に基づく豊富な話題等が人気で、リピーター続出だそうです。

「うべ元気ブランド」は市内でとれた農水産物を、市内で加工した製品を「うべ元気ブランド」として認証、育成、販売促進していく制度で、平成２２年に創設され、現在２４業者、４７品目が登録されています。

元気ブランドに認証されると、販路拡大のための展示会出展や広告宣伝費の補助が受けられたり、製造促進のための機械器具等の整備費に補助が受けられたり、食品などは学校給食に導入されたりもします。さらにブランド認証者が会員の、うべ丸ごと元気ネットワークが、会員対象のセミナーを開催したり、商品のコラボを行ったりもしています。６次産業かにも積極的に取り組んでいます。加えて平成２７年には、うべ元気ブランドを代表する上位ランクである「うべ元気ブランド・ゴールド」が創設され、初代のゴールドには、純米吟醸貴山田錦が選定されました。

以上、建設経済常任委員会は高知県高知市・広島県福山市・山口県宇部市の３市の行政視察を実施しました。農業・商工業・観光の活性化等、地産地消の取組み、６次産業の推進を図るための参考となる大変有意義な研修となり、現地を訪問しなければわからない貴重な情報を得ることができた。今後のさくら市に参考とすべき貴重な行政視察となりました。

以上報告いたします。